

機関番号：42202

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520199

研究課題名（和文）平家物語の初期形態に関する多角的研究—屋代本を拠点として

研究課題名（英文）Diversified research on the first stage form of The Tale of the Heike—Based on Yashirobon—

## 研究代表者

千明 守 (CHIGIRA MAMORU)

國學院大學栃木短期大学・国文学科・教授

研究者番号：00310194

研究成果の概要（和文）：平家物語の成立に関して、現在、読み本系諸本に属する延慶本の存在が注目されているが、語り本系諸本の中で最も多く古態性を留めていると考えられる屋代本（國學院大學図書館と京都府立総合資料館に分蔵）の本文がその延慶本と比較してどのような性質の本文を持っているかを明らかにした。書誌学的調査から本書の成立年代を明らかにし、本文の周辺本文の比較調査からその本文の特質と成立過程を推測した。

研究成果の概要（英文）：Enkyobon that belongs to the yomihon category is paid to attention for the finished form of The Tale of the Heike now. And, Yashirobon (owned to the Kokugakuin University library and Kyoto huritu Synthesis library) is thought that approval is the oldest in kataribon category various books. We clarified what difference Yashirobon and Enkyobon had. We clarified the approval age from a historical bibliography investigation, and clarified the characteristic and the approval process of the text.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：中世文学、平家物語

## 1. 研究開始当初の背景

平家物語の成立に関して、現時点では、相対的に広本系（読み本系）の延慶本が古態性を留めているという見方が大勢を占めているが、原平家物語とは質的・量的にどのような差異があるのか、またいかなる経緯を経て語り本系諸

本（十二巻本）の成立に繋がってくるのかという問題の核心部分は、議論すらされていない状況であった。

## 2. 研究の目的

上記の諸問題を解明するために、國學院

大學が所蔵する屋代本平家物語を、書誌学・日本語学・歴史学等の多角的な視点から、学際的・総合的に研究考察することにより、平家物語の成立と流動に関する議論を開放し、新たな理論を構築することが目的である。

### 3. 研究の方法

本研究課題を進めるために、以下のような方法で研究した。

#### (1), 屋代本平家物語の基本的書誌調査

屋代本の基本的書誌調査を行い、調査結果について討議する。研究代表者はそれぞれの専門的知見を集め、まとめる。研究報告会は屋代本を所蔵する國學院大学で行う。

#### (2), 研究史の検証

これまでの屋代本平家物語をめぐる研究史とその評価について、検証し討議する。対象とする主な研究者は以下の通りである。

高橋貞一・渥美かをる・時枝誠記・永積安明・山下宏明。

#### (3), 百二十句本とその関係諸本の合同書誌調査

百二十句本及びその関係諸本の基本的書誌調査を行い、調査結果を発表し討議する。調査対象は、斯道文庫蔵百二十句本、佐賀大学鍋島文庫蔵小城本、佐賀県立図書館蔵本とする。研究代表者はそれぞれの専門的知見を集め、調査結果をまとめる。研究報告会は所蔵者である斯道文庫で行う。

#### (4), 屋代本本文の多角的考察

屋代本の本文と他の諸本の本文・その他の史料とを比較調査し、それぞれの専門分野の視点から考察し、それを研究報告会において発表し討議する。担当とテーマは以下の通り。

千明守：覚一本周辺本文の位置・一方系と八坂系の関係について

松尾葦江：本文流動の段階的位相差

坂井孝一：史実と物語の関係など

佐々木孝浩：四部合戦状本・百二十句本・屋代本の書誌

吉田永弘：中世の表記や語法と屋代本

牧野淳司：宗教史的視点からの検討、剣巻など

原田敦史：覚一本と屋代本の関係

#### (5), 公開シンポジウムの開催

外部から講師を依頼し、研究分担者を含め公開討論会を開催する。

### 4. 研究成果

本研究課題の成果は以下の通りである。

(1), 現存の屋代本平家物語は紙質や体裁、用語などが必ずしも14冊すべて均質でないことがわかった。従来、巻四と巻九は真字熱田本の取り合わせ、巻二は高野辰之蔵の時期の補写であることが分かっていたが、今回、巻十一も異なる書写であることが判明した。

(2), 研究史の検討により、屋代本や所謂「覚一本系諸本周辺本文」や八坂系諸本の本文の書誌学的調査を含めた基礎的研究が足りないこと、歴史的視点からの当該諸本文・記事の検証が足りないこと等が判明した。今後、さらに研究を進めるべきとの結論を確認した。

(3), 百二十句本及びその関係諸本の調査により、その成立の特殊性(特に地域的な偏り)が明らかになった。

(4), 屋代本の本文の調査により、巻十一が書誌学的に後の時代の成立を示しているだけでなく、語法的にも、記事内容の点からも、他巻とは異なり後次的要素を強く持っていることが判明した。また、延慶本を含む読み本系諸本の本文並びに覚一本を中心とする語り本系諸本の本文と比較して、それぞれに古態性と後次的要素とを併せ持ち、単純な直線的系統図で示すことができない関係であることが明らかになった。

(5), 日本中世史を専門とする研究者との共同討議により、問題意識を共有化することによって、これまでそれぞれが蓄積してきた研究成果を相互に検証し合い、その精度と有効性を高めることができるのではないか、という可能性を確認することができた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計18件)

① 佐々木孝浩、絵巻物と絵草子―挿絵と装訂の関係について―、斯道文庫論集、査読無、45輯、2011、37頁-54頁

② 佐々木孝浩、蔵書家大内政弘をめぐる、名だたる蔵書家隠れた蔵書家、査読無、

2010、57頁-79頁

③ 牧野淳司、平家物語の「仏法」、明治大学古代学研究所紀要、査読無、14号、2010、57頁-69頁

④ 牧野淳司、『平家物語』「いけずき」と「するすみ」、鳥獣虫魚の文学史獣の巻、査読無、2011、169頁-185頁

⑤ 松尾葦江、平家物語と死—物語の救済—、国文学解釈と鑑賞、査読無、74-8、2009、44頁-51頁

⑥ 松尾葦江、平家物語断簡「長門切」続々考、平成21年度國學院大学文学部共同研究報告、査読無、2010、110頁-112頁

⑦ 坂井孝一、真名本『曾我物語』の構想と特徴、創価人間学論集、査読無、3、2010、1頁-18頁

⑧ 坂井孝一、曾我事件の歴史的背景—建久三・四年の政治情勢を中心に—、創価大学人文論集、査読無、22、2010、27頁-47頁

⑨ 佐々木孝浩、卷子装であること—早稲田大学図書館蔵『新撰菟玖波集』をめぐる—、斯道文庫論集、査読無、44、2010、139頁-157頁

⑩ 吉田永弘、国語学から見た延慶本平家物語、延慶本平家物語の世界、査読無、2009、148頁-165頁

⑪ 牧野淳司、仏教と延慶本平家物語、延慶本平家物語の世界、査読無、2009、121頁-135頁

⑫ 松尾葦江、流動する物語を読むということ、国語と国文学、査読有、85-11、2008、1頁-11頁

⑬ 松尾葦江、古筆切平家物語考証序説、愛知県立大学文字文化財研究所年報、査読無、2、2009、1頁-3頁

⑭ 松尾葦江、長門切続考、國學院大學で中世文学を学ぶ、査読無、2、2009、85頁-95頁

⑮ 坂井孝一、源実朝覚書—青年将軍の心にさした光—、創価大学人文論集、査読無、21、2009、29頁-48頁

⑯ 佐々木孝浩、勅撰集奏覧本の面影—『新撰菟玖波集』の卷子装本をめぐる—、斯道文庫論集、査読無、43、2009、181頁-214頁

⑰ 牧野淳司、延慶本『平家物語』弘法大師宗論説話の生成、国語と国文学、査読有、85-11、2008、78頁-88頁

⑱ 牧野淳司、『平家物語』維盛身投げ物語の位置、日本文学、査読有、2008-7、2008、37頁-44頁  
〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計8件)

① 千明守、三弥井書店、校訂中院本平家物語(下)、2011、406頁

② 千明守、三弥井書店、校訂中院本平家物語(上)、2010、400頁

③ 千明守・他、おうふう、源氏物語の魅力、2010、335頁

④ 松尾葦江、汲古書院、延慶本平家物語の世界、2009、262頁

⑤ 千明守・他、おうふう、日本文学における生と死、2009、60頁-81頁

⑥ 松尾葦江、笠間書院、軍記物語原論、2008、376頁

⑦ 松尾葦江、汲古書院、校訂延慶本平家物語(12)、2008、152頁

⑧ 坂井孝一・他、森話社、看聞日記と中世文化、2009、237頁-266頁

〔その他〕

ホームページ等

[http://www2.kokugakuin.ac.jp/komedlit/kaiken\\_C.html](http://www2.kokugakuin.ac.jp/komedlit/kaiken_C.html)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

千明 守 (CHIGIRA MAMORU)

國學院大學栃木短期大学・国文学科・教授  
研究者番号：00310194

(2)研究分担者

松尾 葦江 (MATSUO ASHIE)

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：70157254

(2010：連携研究者)

坂井 孝一 (SAKAI KOUICHI)

創価大学・文学部・教授

研究者番号：40235106

(2009→2010：連携研究者)

佐々木 孝浩 (SASAKI TAKAHIRO)

慶應義塾大学・斯道文庫・准教授

研究者番号：20225874

(2009→2010：連携研究者)

吉田 永弘 (YOSHIDA NAGAIRO)

國學院大學・文学部・准教授

(2009→2010：連携研究者)

牧野 淳司 (MAKINO ATSUSHI)

明治大学・文学部・講師

研究者番号：10453961

(2009→2010：連携研究者)